

着けよう 反射材!!



反射材は、さまざまなシーンで安全のために活躍しています。



財団法人 全日本交通安全協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-13 自動車会館7階 電話(03)3264-2641(代表)



ちびまる子ちゃん
反射ストロップ



財団法人 全日本交通安全協会

©さくらプロダクション/日本アニメーション

夜道の交通事故を防ぐには、歩行者自身の対策も大切です。反射材で、ドライバーに自分の存在をアピールしましょう!

歩行者の交通事故は、その多くが夜間に発生しています。悲惨な交通事故から身を守るためには、歩行者や自転車利用者の自衛対策も大切。反射材をつけていれば、ドライバーの目にとまりやすく、安全確保にとっても効果的です。反射材は歩行者用、自転車用などバリエーションも多彩。用途に合わせて活用し、夜間の交通事故を防ぎましょう。



事故防止には、夜間の視認性を高めることが効果的です。

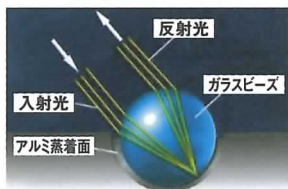
夜間、車から歩行者が見える距離は、着ている衣服の色によって異なり、車のヘッドライトを下向きにしたときには、一般に黒っぽい服で約26m、白などの明るい服で約38mとされています。



反射材とは？

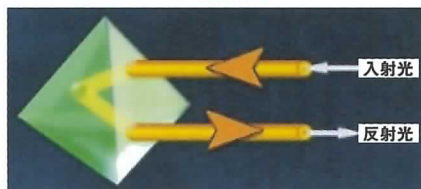
反射材は、再帰性反射という性質を持つ素材です。反射材を身につけているとき、車のヘッドライトの光が当たると、その光は光源である自動車に向かってそのまま反射されます。このため、本人にはその効果を確認することはできませんが、どの方向から来る車のドライバーにも、よく光って見え、歩行者の存在を確認することができるのです。通常、反射材は、ガラスビーズとプリズムの2種類に大別されます。

ガラスビーズ



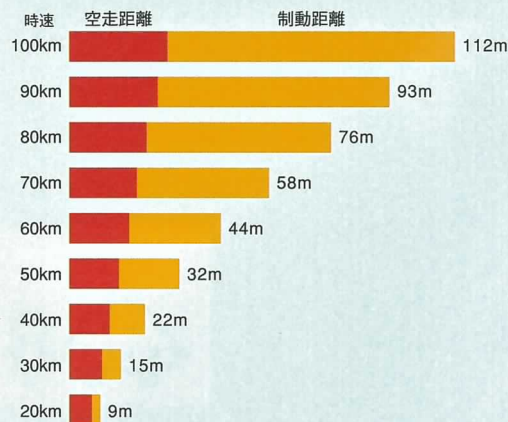
入射光は、ガラスビーズの表面を通過するときに屈折し、裏側のアルミ蒸着面で反射して、再び表面を通過するときに屈折して光源に戻ります。

プリズム



表面への入射光は、プリズムの裏側の面で次々に反射して、表面から光源に戻ります。

普通自動車の停止距離



一方、運転者が歩行者を発見して車が止まるまでの距離は、例えば、乾いた路面を時速60kmで走っているときで約44mですから、明るい服装であったとしても、交通事故に遭う危険性があります。

これに対して、反射材を身につけていた場合は、反射材の種類・大きさ・取り付け位置などによって異なるものの、約57m以上の視認性が確保されています。反射材非着用の場合と比べ、格段に安全性が向上するのです。